

# 令和3年度 市長施政方針



まず始めに、本市が直面する喫緊の課題は感染症対策であり、速やかに必要な施策に取り組んでいく必要があると考えています。昨年来、地域外来・検査センターの設置や、事業継続給付金の支給、スマイルチケットの発行など、様々な感染症対策を実施し、市民のみなさまの命と生活を守り、地域経済を支援できるよう努めてまいりました。現在は、ワクチン接種への対応を最優先しているところであり、引き続き感染症対策に取り組んでまいります。

さて、今年度は、私にとって“市長2期目”の始まりの年であり、1期の4年間で蒔いてきた種が、いよいよ実を結び始める1年になるものと感じています。3月には、まちづくりの核に据えてきた「協創」の考え方を「協創によるまちづくり推進指針」としてまとめ、“誰もが主役のまちづくり”の実現に向け、みなさまとビジョンを共有する準備を整えました。今後は、この指針に基づき、協創から生まれる「つながりの融合」をさらに進めるための取組に着手いたします。

2期目の施策方針としては、「地域を創る」「ひとを創る」「まちの価値を創る」といった、三つの「創る」を掲げさせていただきました。まず「地域を創る」についてですが、多彩な人々による地域のつながりや支え合いの仕組みづくりが、活力ある地域経済の循環や賑わいの創出、災害に強い安心安全なまちづくりなどにも繋がっていくとの思いを反映しています。具体的な施策としましては、地域運営組織の立ち上げに向けた事業展開を開始いたします。

次に「ひとを創る」についてですが、本市では、子育て世代を対象とした施策を重点プロジェクトとして位置付け、妊娠期から始まる一貫した子育て支援に取り組んでいます。あわせて、昨年、市と山口東京理科大学、市内4高等学校、教育委員会では包括教育連携・協力に関する協定を締結し、小学校から大学まで一貫した教育連携の推進体制を整備したところであり、幼少期はもちろんのこと、生涯にわたる学びの支援に繋がっていきたいと考えています。また、本市では、健康寿命の延伸を目標としたスマイルエイジングに力を入れており、ウォーキングを中心とした事業を通じて、

みなさまの健康維持や健康寿命の延伸に努めます。

三つ目の「まちの価値を創る」についてですが、多くの人から選ばれるまちとなり移住・定住人口や交流人口を増加していくためには、まち自体に人々から求められる価値が必要です。ガラスやレノファ山口、「知(地)の拠点」としての市立大学といった元来備えている魅力に加え、LABV手法を用いた商工センター再整備による地域の賑わいの創出など、新たな価値創りにもチャレンジし、まちのブランド力向上を図ります。

今後、都市部から地方部へと人の流れが生まれることが予想されますが、あらゆる世代、立場の方にとっての「住み良い暮らし」を創っていくことが重要であり、持続可能な地域社会づくりも、その延長線上にこそ実現できるものと考えています。

コロナ禍にあつて、社会が大幅な変容を余儀なくされる中、これを“変革の好機”と捉え、前向きに新たな時代の到来に備えていく必要があります。本市では、ICT技術の利活用によるデジタル化の推進を実現するため、民間企業から人材を招へいし、デジタル推進室を立ち上げています。デジタルの活用が有効な分野は幅広く、今後はデジタル手法を活用したまちづくりにも取り組みます。

現在、次年度からスタートする第二次総合計画中期基本計画を作成中であり、「協創」の考え方や三つの「創る」の観点をベースに、本市が進むべき方向性を具体的な施策に落とし込んでいきます。

また、人口減少社会において持続可能な地域づくりを進めていくには、「多様性」を取り入れることが大切です。様々な立場や視点を持つ者同士が認め合い、各々の意見に耳を傾け合うことで生まれる、違うからこそその視野の広がりや発見が、今までにない価値の創造にも繋がります。「協創によるまちづくり」が目指すところは、正にそうしたまちの姿です。

令和3年度におきましても、市民のみなさまを始め、本市に関わる全ての方と共に、協創の実践による「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現に向け、職員一同、一丸となって取り組んでまいります。

6月市議会定例会の演説より抜粋